



~ 13
4037
5



和文印

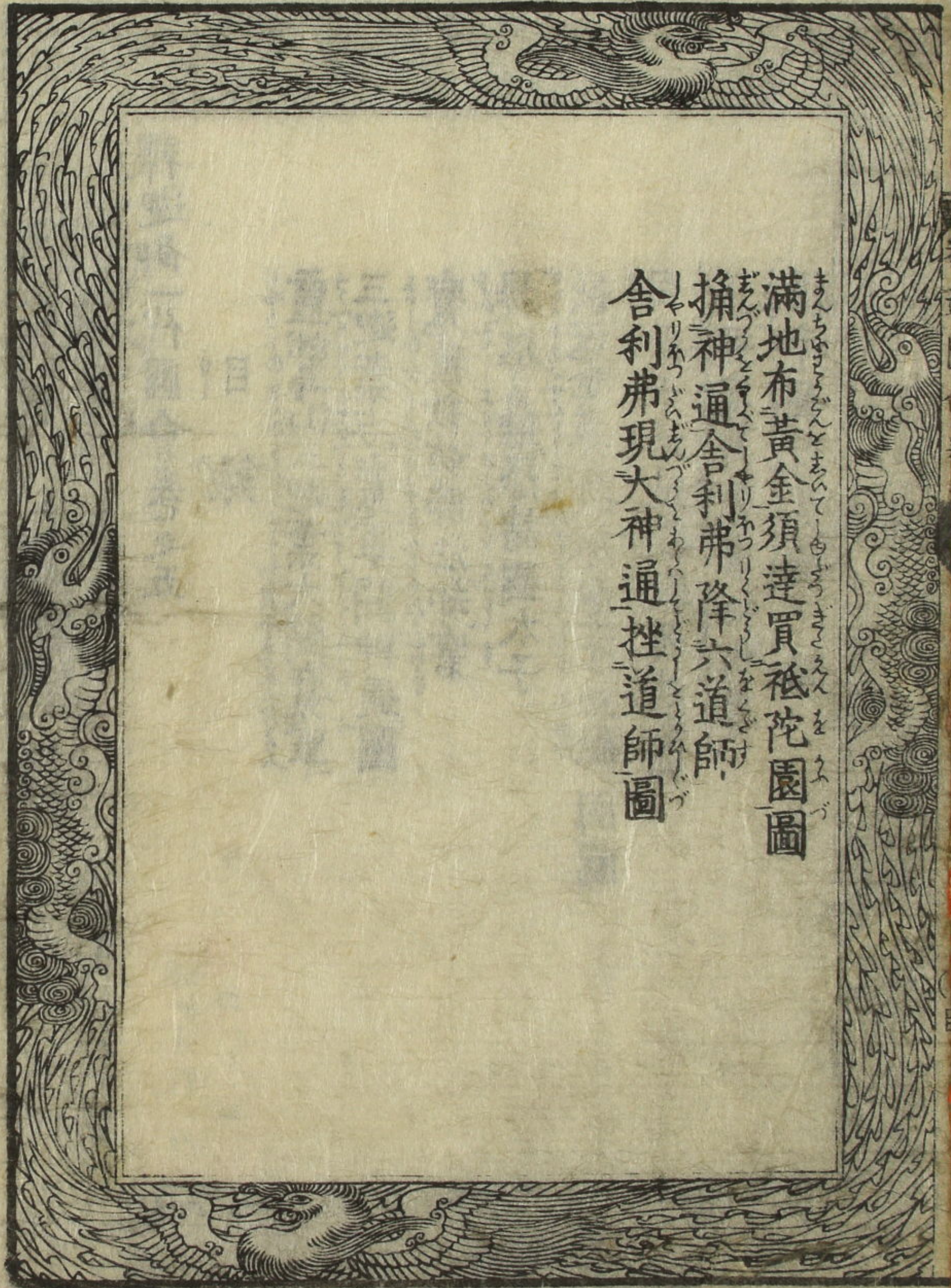
釋迦御一代圖會卷之五

目錄

靈鷲山三迦葉大闍魔軍
 三迦葉与魔軍闘神通圖
 魔種欲妨佛法却害
 提婆達多惑心諸國太子
 欲冠世尊提婆墜活地獄 同圖
 目蓮于活地獄救提婆圖
 須達宿月蓋舍拜世尊
 須達長者買祇園

和文印
 和田大作氏贈

滿地布黃金須達買祇陀園圖
捕神通舍利弗降六道師
舍利弗現大神通挫道師圖



釋迦御一代圖會卷之五

靈鷲山三迦葉大闍魔軍

浪華好菴堂野亭考選

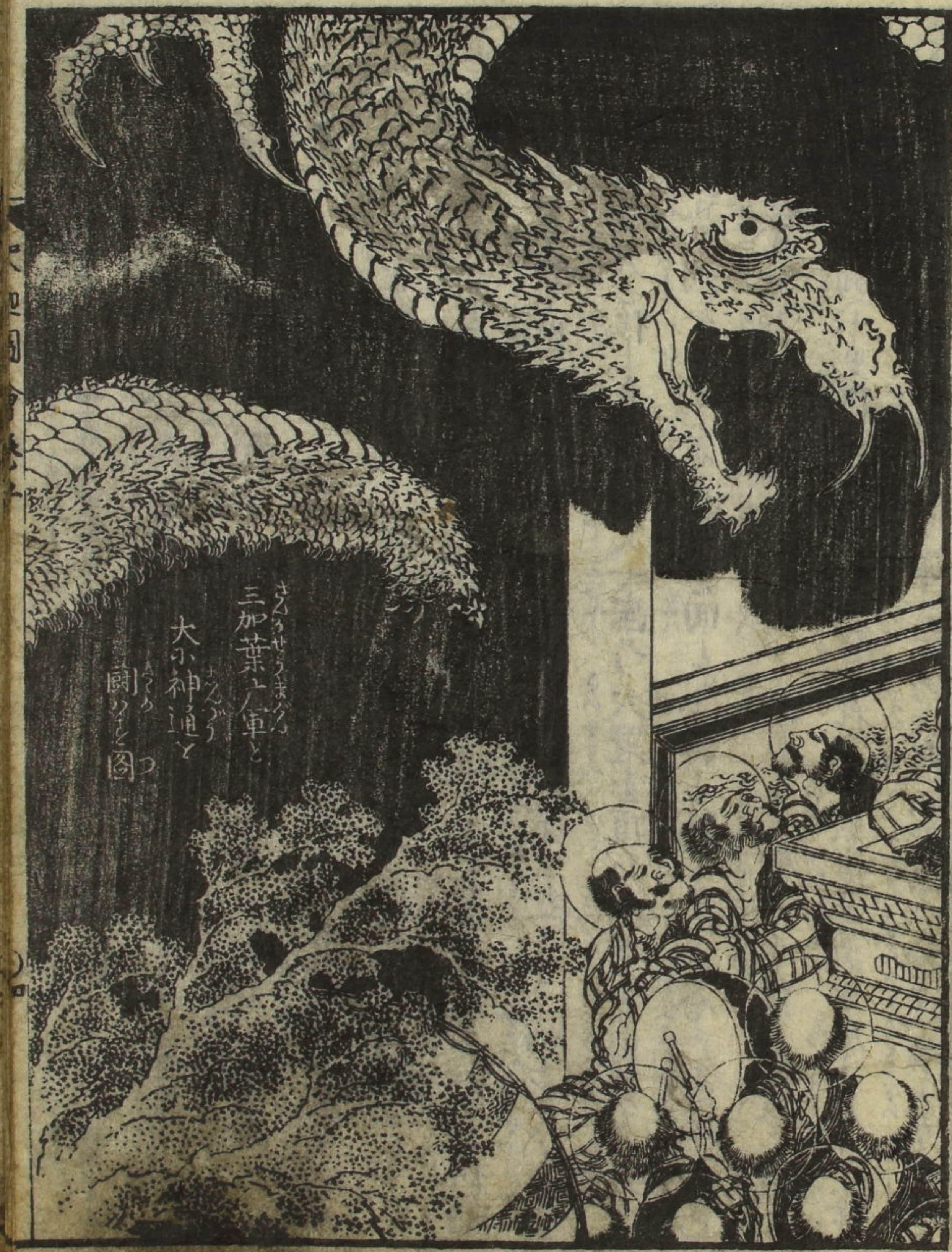
斛飯王乃太子提婆達多之弟。淨飯王之崩御を以て大に悦び此虚小乘にて親尊を害す。佛法を破滅せん。大軍を招き高議を多し。第六天の大王進んで曰。我曾て佛法の世を行かば。憂ひ悉達かへま。雪山難行の向より障導を以て。彼奴六神通を得。上梵天帝釈四天王其餘の天將諸佛薩無源を扶助す。一度の利を得。茲小借考多し。今釈迦の喪小依り。勿利天正寺に在る。諸天將も彼所不在。獲持を多し。其虚を謀りて。我門八王舎城の靈鷲山に押寄。釈迦乃後弟一千五百人の羅漢に。五王と慶ふ。皇天親を捨至を棄て出家する。不忠不孝の罪を罰し。亦と流云。以後佛道を飯依する者なく。自然と釈迦の佛法衰へ。我が大道亦熾ならず。不知這謀計ハ奈何と云れ。提婆達多手を拍く大に悦び

是枝を剪て幹を死の妙計なり。急が靈鷲山小赴た羅漢も其殺
せよと。自己八部の魔軍億萬數を領。雲を跨て王金城乃靈鷲山
を赴た。此の靈鷲山者閻嵐小三加葉大衆を領。富田那者世尊
小代りて說法。聽衆小無常乃迅速なるを統綸。在る小倉車小惡
風吹来て満山の樹木を動揺させしむ。數萬の聽衆是ハ如何なる天變
小やと發た強ぶ。法話を歩捨八方へ離散。已が隨意逃回。二千五百の僧
徒も惆果る。遙小天をぬりしける。唯視一朵の黑雲叢聚。霹靂乃
音山河を震動させ。雲中小奇姪乃惡鬼充滿。或ハ三面六臂或ハ頭三目
或ハ短身長脚或ハ手八足其他鱗角劍乃如く。毛髮針乃如く
かまわく。種々の惡相。故拳とる小違あ。各ナ牙を鳴。眼を瞋。兵
杖器械を執。群り降る。怖る。大衆戰慄。今や渠
者ども小劈た喰も。活心地ハたり。然も大河加葉兄弟三人ハ

是をりて。早く提婆が障身せんと。我知。些の怖ま。瑠璃の高座小
上り十絶の靈幡を。鐘を鳴。磬を。威を示。提婆達多左右
小對渠ハ何者。向魔種乃中。織者有。曰渠ハ獨國乃優樓頻
螺。那提伽。三入乃兄弟。悉く名を加葉と呼者。其先仙法を學。ハ
火小華。後釈迦。徒弟となり。佛法小解。中央なるハ。即兄優樓頻螺
小。大加葉と呼。釈迦ハ。十大弟子乃。隨。答。提婆達多。嘲。ハ
老年乃。比丘何程乃。更なる。得人。只二箭。小射殺。令。小軍領掌
一。小毒箭前を放。雨乃如。三加葉猶。寸。動。三人。右乃手
を。三輪乃。大蓮華。なり。大衆を覆。箭前を遮。小軍の箭悉
く。飛。却。魔陣を射。是。族。大。狼。狽。を。亂。て。綱。
退。二陣乃。軍。入。猛。火。を。降。惡。風。を。吹。攻。至。加。持。
如意を揮。是を拂。猛火一。小。消。惡。風。却。大。兵。を。吹。仆。三。陣。乃

魔頭驚歎。加葉の神通亦侮まじく進む向の雷乃如れ声を震て曰魔
什伎加葉多年仙法を學び大少事をなす。何ぞ連年の功勞を捨釈迎て安堵
不惑され寂滅の道入や早く無益の佛法を捨く仙法不取不死乃
道を耳んせよ猶悟を我が道を妨げを身軀髮層を微塵小碎を捨人
と罵りより加葉天を仰ぐ呵々として。你淺魔無道の提婆小暴られ
我佛如来の妙法を妨んとれども。世尊の大威神力を馬ぞ及ぶな早く
心を翻して三室小皈依。如来の教化を受よと曰。大王此結を束く大の怒り
萬眷屬小指揮して。閑を幾兵刃を雨く攻進む三加葉ひく身を動せ
む三個の金剛神と化し各三叉の戟を廻して空巾を飛行し六軍を拂小唯
秋風の木葉を散ると如く悉く雲中へ逃隠る。大王大い憤り巨口を開く火
焰を吐き鐵杵を奉く唯一撃小せんと飛來る。大河加葉本相を顯し一指を
揮む火焰忽ち五彩の花と變り散持する鉄杵弱軟する小蓮華と成

くれを前乃廣言ふ由似ど慌張で巡回ぬ。第四陣乃魔首今よりして黒雲を起
し百子の雷神を真く電光を閃く。攻進む三加葉一各小手を以て虚空に
毫を旋風吹幾く黒雲を散り水雨降志なき。雷火を消おと是も可く
逃退く第五陣乃六頭思惟。普通乃業あて八勝ぐ。自己身を躍
く百尋乃悪龍と化し天小飛揚して爪牙を鳴り。火穴乃如れ口以開れ焰乃舌
を閃く。二加葉を俛吞せんと下り來る。大河加葉口く身を動せを忽ち大鵬
と化し兩翼天を覆ひ船を合せし如れ嘴を鳴り。悪龍乃目暗を啄く。小
大王大い怖し化身を収め巡回る。是を見よ。第六陣乃大將萬眷屬を領し
進む。至る小大河加葉如意を以て虚空小描を唯見し軍乃上小大石出現
し藕絲を以て鉤り。其因二人乃加葉如意を以て空小描を忽ち懸して。二
乃嵐とかり。大磐石を釣する絲を以て繋ぎ。大軍の上へ大石を墜せんと
六軍發れ慌て逃退く。第七陣乃六頭衆眷族と俱小煙霧密雲と成



三加葉ノ軍
大ノ神通
闘ヲ図



天を覆む。俄然として世界大黒闇となり。自他を見ざる。隻能く。三加葉より
 三箇の日輪と化して。天を昇る。煙霧密雲との大軍となり。世界明朗な
 る。以前小勝り。暑こと。焼が如く。大軍首然として。敗退し。第八陣の
 王突出。身を動さず。忽ち一大神と化し。身材七十五丈。兩足
 二坐の山頂を踏み。跋扈し。瞋まる。眼ハ淨破璃の鏡を。鼻ハ峻峻たる山と疑れ。血池ハ一般の口耳根。裂牙とさか。利劍
 を植かん。如く生出。吐息虹。彷彿と。大加葉公然として。怖む。身之
 動。增長天と化し。身材百丈七室。大冠を頂。明々たる山光を。十
 二種。無量相を具し。方天戟を。大加葉方便を。破り
 を。如斯く。退退。如斯く。軍術を。三加葉方便を。破り
 一七日。間挑。佛徒。神通勝。提婆。遂。氣を。軍と。牽
 自國。引退。於。千五百。大衆。三加葉。神通。廣大。なり。とて

續歎世のかりり

魔種欲妨佛法却害

却統釈迦年。正寺。在。父君。淨飯王。即。追。編。乃。為。且。諸。卿
 官。族。乃。為。小。緒。善。万。行。の。功。德。附。屬。の。統。法。を。も。り。あ。つ。愼。曇。弥。好。容。美。容
 の。三。夫。人。鹿。野。瞿。陀。弥。乃。二。新。宮。感。慨。乃。余。り。如。果。願。ひ。瑠。璃。の。髻。を。も。り。入
 戒。女。僧。と。なり。あ。つ。三。千。の。後。宮。妹。女。も。同。小。刺。髮。深。衣。の。姿。と。り。り。あ。つ
 善。惡。の。車。乃。兩。輪。の。ご。ご。信。心。善。行。の。人。々。小。事。易。り。斛。飯。王。乃。子。提。婆。達
 多。八。聖。鷲。山。乃。争。ひ。小。加。葉。乃。為。小。挫。れ。無。念。骨。髓。徹。猶。佛。法。不。冠。せ。ん
 と。魔。王。外。道。を。集。く。佛。法。破。滅。の。謀。を。繕。む。小。故。思。の。魔。王。乃。曰。是。を。數
 度。釈。迦。の。法。を。妨。ぐ。と。り。小。神。通。を。弄。ひ。眷。屬。を。屬。し。還。小。釈。迦。を。害。せ
 ん。との。謀。乃。渠。已。を。慎。信。心。堅。固。し。て。一。念。を。亂。さ。ず。故。小。每。度。勝。事。不。能
 茲。を。以。て。我。熟。思。惟。と。り。何。事。方。便。を。以。て。渠。が。心。を。禱。ら。各。其。慢。心。乃。生。じ。と

虚乘一々害心。其の釈迦よりも、縛る人更難く、提婆が曰、此論甚る。卓し。より、其方便、奈何と問、王が曰、今釈迦、天正寺に在り、説法し、我く五百人の眷属を剃髮、漆衣に染せり。四羅漢の昧小、紛装せり。大衆も、亦一千の眷属を婆羅門の姿と變じ、釋迦が説法の聽衆、小雜を其經説を續軟し。出家の望を述べ、徒弟とせり。人更を乞ふ。彼自、憍慢の心を生じ、多し。其阿、乘、釈迦を擲殺し、鼠を殺し、より、安らぐ。と。より、自ら曰、れ、提婆、達多、大、小、悦び、是、究、妙、計、なり。五百人の、天正寺へ、形、を、變じ、て、天正寺へ、赴き、千人を、波、羅、門、に、化し、て、謀を、教、天正寺へ、結し、提婆、六、王、と、俱、小、隱、形、の、法、を、説き、姿、を、隱し。法、坐、の、辺、小、純、御、專、く、虚、を、を、窺、ひ、多、く、噫、呼、愚、方、多、く、提、婆、唯、是、聾、者、乃、鈴、を、盜、ん、と、ぞ、が、如、我、の、見、小、迷、ひ、却、り、世、を、了、神、通、眼、を、昧、し、人、と、巧、多、く、拙、り、れ、諸、も、釈、ま、獅子、の、高、座、より、因果、觀、面、の、理、を、述、比、論、を、説、く、説、法、し、お、ひ、

小、妖、魔、佛、弟、と、變、じ、て、大、衆、の、中、小、紛、を、入、或、を、波、羅、門、と、成、り、聽、衆、の、中、小、雜、る、公、覽、し、是、亦、提、婆、が、法、を、妨、ん、と、謀、ま、る、を、了、り、と、知、る、を、了、り、と、あ、く、ね、財、小、く、大、衆、小、對、ひ、お、ひ、れ、佛、道、修、行、を、身、小、善、尺、魔、の、障、あ、れ、八、等、閑、小、て、正、果、を、得、ず、。因、り、信、行、の、法、を、定、む、を、。舍、利、弗、因、連、迦、梅、延、們、ハ、既、お、心得、く、有、る、を、れ、を、。それ、の、位、を、定、む、と、穩、小、仰、あ、る、三、羅、漢、佛、勅、を、奉、り、大、衆、を、分、き、三、重、小、居、か、く、を、。諸、不、て、曰、初、地、より、十、地、ま、く、八、声、聞、と、号、し、十、二、戒、より、非、多、戒、無、任、の、行、六、時、の、勤、行、有、る、を、。次、一、行、より、十、行、ま、く、十二、因、縁、の、修、行、を、。縁、覺、と、号、し、百、種、の、諸、戒、を、改、め、六、時、の、勤、行、懈、怠、を、。別、体、無、任、か、る、を、。其、次、ハ、一、定、より、十、定、ま、く、。禪、定、惠、智、の、四、種、の、德、道、を、。善、提、と、号、し、六、波、羅、密、を、行、じ、六、時、の、勤、行、懈、怠、有、る、を、。と、。嚴、重、小、法、を、定、り、是、小、依、り、世、を、。大、衆、の、為、小、戒、律、經、を、説、く、是、を、降、魔、の、初、を、。斯、く、大、衆、ハ、法、令、の、如、く、戒、律、を、守、り、勤、行、懈、怠、を、。修、ま、れ、を、。惡、六、外、道、を、。斯、

法律をん厳重なる緘を知らぬ面々顔を見合せ案小相違せし心地をん
是地なく大衆のちる見よの勤行し或ハ痺を堪へ或ハ大を及ぶ行ひ
可可笑如来ハ明白ハ外道の情態を知むハ強く之ハ勤行の
躰内ハ改りハ聊あくも急る輩ハ信時禁文とハ或ハ坐位を下坐具を
絞リ或ハ衣裳を切衣を置ぎ緘を懲りし外道ハ堪へハ本相を
頭ハ頭を抱へ逃去り且亦聴衆小難ハ惡大們を世々ハ脱法を空安ハ
聴く口喧しく續歎し首を振る感賞ハ如来ハ高坐乃下進より
出ぬ涙を袖ハ拭ハ実難有法乃功德ハ我門ハ多年學ハ只後生ハ王侯
貴族ハ生ハ潤計歡樂を究ハ願ハ難行苦行ハ今如來の脱
を承りハ初ハ今ハ修行ハ道ハ解脱真正の妙法ハ及ハ事ハ悟ハ
仰ハ願ハ大慈如來我門ハ出家得道ハ飽ハ言ハ巧ハ
曰ハれハ世々其詐謀を知ハ然ハハ体ハ曰ハ実ハ奇特ハ志哉

先戒行をなとぞ一々舍利弗日連其餘の阿羅漢ハ命ハ教ハ羅漢
達師命を領ハ外道ハ對ハ佛道ハ入ハ欲せハ先十戒を受ハ其
初ハ無食ハ行ハ一切ハ食物を斷ハ一滴ハ水ハ飲ハ亦睡眠ハ
行ハ終結ハ終結ハ如斯ハ心を煉事三七日ハ千人ハ別
室ハ居ハ二百人ハ比丘を以ハ是ハ守ハ坐ハ起者ハ三十杖撃ハ
中ハ談話ハ者ハ五十五杖撃ハ睡眠ハ者ハ百杖撃ハ嚴ハ令ハ下
多ハ是ハ外道を害ハ之ハ普通ハ人ハ出家ハ都ハ斯ハ如
然ハ廣族ハ案ハ外嚴ハ戒行を受ハ初ハ程ハ佛法破滅ハ互ハ心
を屬ハ金剛合堂ハ坐禪ハ殊勝ハ体ハ元來飽
肉食惡食ハ無頼放蕩ハ生育ハ者ハ皆時ハ忍ハ脚
痺刺ハ飢渴ハ臨ハ堪ハ伸ハ杖ハ収ハ面ハ亦坐禪ハ
れハ脚ハ腕痺ハ我ハ志ハ策ハ或ハ互ハ喃ハ

才て八背を穿れ睡て之肩を穿る小と殆ど困窮。堪へず一人か逃出せ我
少くと本相を顕し。雲ふ攀り這々魔界へ逃回リけるハ可笑ふ事。見苦らむら
守乃僧ハ是をんく大い孩死せし小湯く有し。鎮末を言上。如来法をせ
むひ予疾より渠們が障導せんく来り我知も伴とまらむ。以ち来りナ
佛一如されを渠們を中後遂に善果を得せり。人々と宣ふ。大衆們佛智
乃廣大なる。大慈愍心を感じ。愈信心を凝し。多

提婆達多惡感緒國太子

悪まげふ。惡外道ハ世より嚴戒の惡果提婆が許へ逃回リ息を吐あへ。二五十二と
結リぬれ。提婆も今八十針盡此上。如何せん。沈吟し。亦一箇乃大
惡念を生じ。三種の結て曰我法性妙顯仙の幻術を盡く傳授され。釈迦
がいふ。濟度せざる國々を我先往廻り。幻術を以て諸人の心を昧す。外
道を勧む。釈迦の教を疎ませ。佛法を妨人々如何。向六王們手を穿

く這練行大い妙なり。疾々思ひまへと勸ふ。小より提婆飲せ。く悦び素
り仙家の幻術を学び究む。これを老者とかり。女年となり。霧を發し。風を呼
等乃神變自在を弄。本國を啓行。阿支羅兜國に到り。國王頻婆娑王の
太子阿闍世太子を昏迷させんと。白髮の老翁と變じ。太子の宮中へ到り見
る石を握り。王とり。瓦を碎り。黄金とまらむ。神變不思議の術を行
ひ。これ阿闍世太子太子提婆を信し。宮中へ停り。重く饗食應あり。く
其術を学べ。これ又頻婆娑王の太子は是れ。姪に術なり。今釈迦牟尼
佛世に出む。其道を信する者と將來の福を得ると。や。不如邪道を捨
て。三寔を信せん。小く練り。太子此妻を提婆に告る。小提婆が曰。佛法
ハ親を捨主を捨。妻子眷族を捨。寂滅を樂。子孫を断絶せ。い子
道なり。邪道是より甚く。これなり。我が道ハ石を玉と。瓦を金と。まらむ。奴
道なり。國を富。子孫の榮を管む。法なり。豈佛法と雲。壞の違の。人

や太子又王乃妄言を信じ、少更勿れ、不明の又王の國を治り、國財
遂小僧徒の供養を費す。襄滅の基と爲るなり。早く又王を牢獄に下し、御身
王位に即國中、佛法を信むる者あるを盡く、刑罰を行ひ、人を勧め、
太子提婆が爲小惑され、疾より心魂を味され、今這大惡言を言て、至極
の格言なり。情なく、又王を廢して、七重の牢に入たり。右宮章提希夫人
是をよみて、大りの孩た、悲し、太子を百般小練、少を提婆する。太子小練、
夫人をも獄に下し、其下の中、練言する者悉く、市に出して、刑戮
し、これを果ハ維有る風練する者、潜小肩を擧て、世を危む。阿闍
世太子、是を好む。昼夜淫酒、耽り、國政を荒く、下民を虐む。ふより、國
中大不義、有り、提婆、八仕と爲り、たつと悦び、阿闍世王、小辭して、阿支羅兜國
を去り、矩奢那國へ到り、國王、頭明王の皇子、龍種太子を惑はし、
勸り、佛道を忌せ、奢移を究り、頭明王を徒陀河と爲る大河を渡り、

遠嶋へ流させ、それより、換陀羅國へ入り、鹿仙太子を患惑して、又阿迦賊王
を絶し、魔柄山と爲り、深山の溪へ捨せり。其他、諸道を回り、人心を惑はし、
君臣の向を裂き、又子の因を断、夫婦を離別し、世朋友を交り、
所有惡業を勸り、五逆罪を造り、者、救奉する小違あむ。其、
ろ、釈迦國家の仇敵、佛法ハ亡國の源を、早く、釈迦を誅し、僧尼
を殺し、又害を除、毒舌を鳴り、流言し、実小、
極惡人なり。又、釈尊ハ、天眼通、天耳通を以て、提婆が惡業を、
心中、思念し、予、因位の昔、衆生の願ひを、
勝佛と現し、二十五種の誓言を起し、四魔の心を、
て、五十一事の誓言を發し、衆生の無明を照し、
其他、万燈佛、燃燈佛、燈明光佛、十二光佛、
三十六尊、廣河、薩化、應と、令身し、不斷、
説法、功徳を、充、仙、迦、人、妙と

化現し衆生化益の爲功を積難行苦行を捨身肉を積山
を築を毘補羅山の峯より高なるを。然を提婆女達を爲惑ハ
五百の阿羅漢を従へた迦陀國を去り先阿支羅兜國に到り
太子提婆女を勸め依り國境毎に關門を建僧徒を國內へ入る事を嚴しく
禁ずるより守門の監率們世尊より來り其を見し心中に偈仰せし。阿
闍世王の責を怕る固く關門を鎖し通しをもととせし。如來の威神力
關門自然開れ世尊師徒障りなくも通りし。其を監率們憫果法に威
伏せし。唯地平伏敬しなる行なり。世尊八路を進む。王城に近著見
其小城中魔氣熾れ立昇り國人勞き窮むる。色有るを世尊三五人の
民を招きよせ國王の政道を問ふ。國人如來の端嚴の法相を見たりて恭
敬礼拜し且泣く告ぐる。八這國先の大王ハ賢明の君なり。朝政正しく民を撫育

し。其の國富土肥。其先年一人の仙羽來り。太子小神變奇特の術と
教佛法を固く停止せ。大王は后宮を捉り牢獄に下し。太子自己王位に
即淫酒耽り。政を治む。奢侈に長じ。國人を虐む。是に依り心ある人
他國に移住し。已更を得ず。國に留る者ハ皆我々が如く疲困し。今王
世尊甚し。憐れむ。其心勞む。更勿き。今王の心を和らげ。先の王
夫婦を扶出。惡政を轉じ。仁政となし。得まをせ。舍利弗目連の
人を召し。你兩人城中へ入。阿闍世王に。此國に來る更を告よ。其を必
定追退し。王自己城外へ出。其阿闍世王に。障り爲し。昏迷せし。心を正路に
皈せしむ。命に命。二羅漢佛勅を領し。神通を弄雲を呼ぶ。是に
駕し。安々と城中へ入。正覺無爲の如來。衆生を化度せん。爲し。這國に來臨し
其の國王を。城中の上下。城を出。如來小拜。結縁をなす。大
小呼り。其を城中の人々大に讚め。阿闍世王に。斯と奏す。王世尊の二字を中

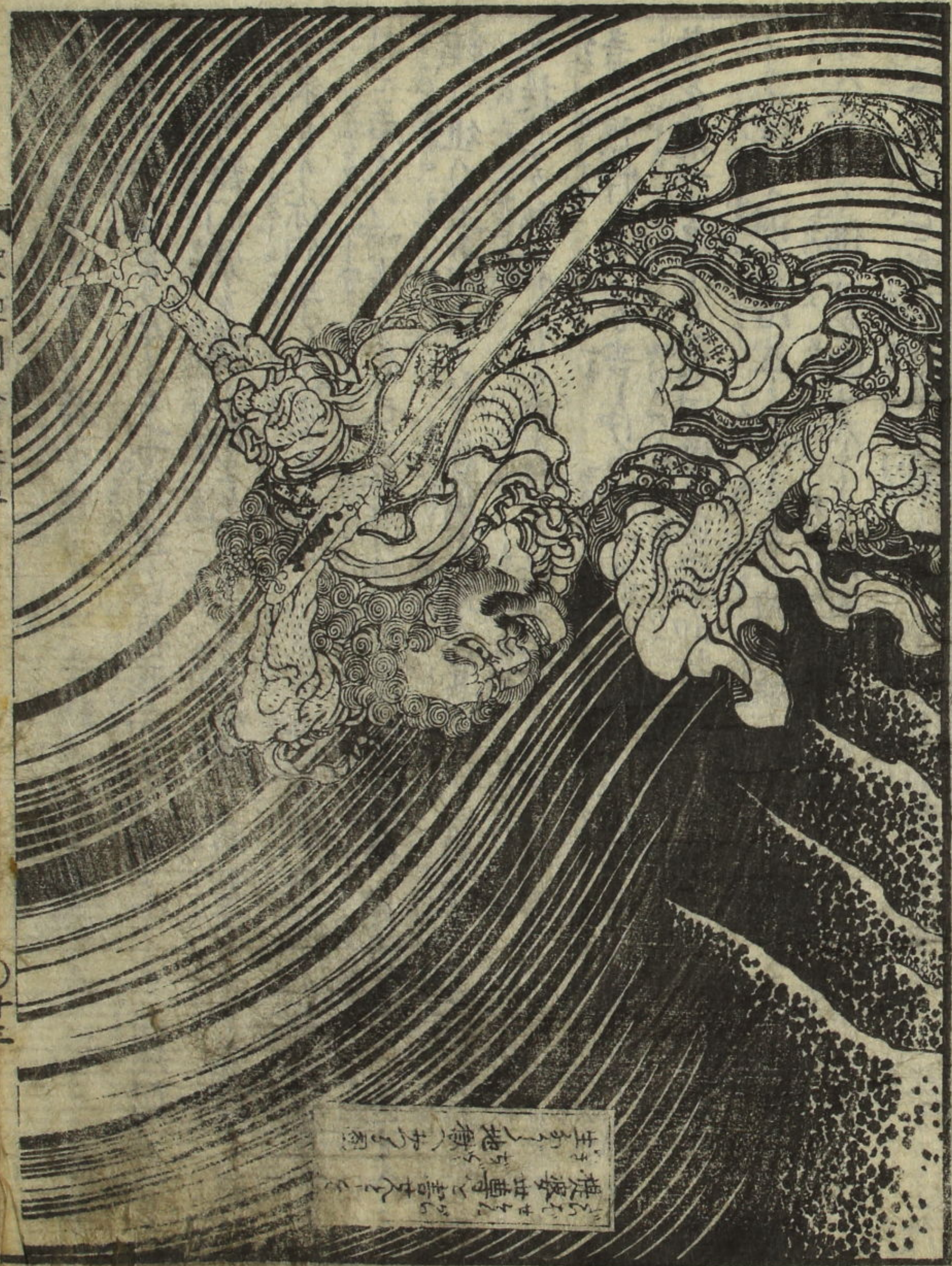
く大不怒り。朕國の四方小關門を建固く佛徒を制林させたる何國より
 来りて朕自己神妻力を以て渠師弟を慶金小一災の根を断んと我
 を身小被懸兵刃を執り軍を領り白象小跨り城外へ押出し前面を
 見れを親尊大衆小圍繞せし御身石上小端坐し其白毫の光赫々
 大陽小向か如眼々々々定ふる斐能く乗る白象八足を縮り首と
 低く進み得を隨從せし軍卒們の覺ど地小跪て礼拜せり阿闍世王氣と
 屬し是後々と鞭を揚り象を撃ともす由動た得されを心焦燥て飛
 下り長鎗を執り間近く世その法跡小迫り声叫んが刺んとさる小忽ち
 鎗ハ鈎針の如く曲り五脉瘡を働た得をさる鐵乃繩少縛られし如
 かれを呆了り忙然たり世その微笑し其善来太子一切如是大慈師緒惡
 莫作衆善奉行共益横難と唱む阿闍世王忽然々々夢乃覺るが
 如く惡心却り善心となり覺む善械を投捨り恭敬礼拜し合掌して南无

佛と唱るふと數萬の軍士も口音小南无佛と唱へる世その阿闍世王小向ひ
 你提婆を障身小依り五逆罪を造るといふ本心より出り科小あらされ
 悔の爲め其罪消滅せり急死又母を獄中より出り不孝の重罪を謝し
 一と命を阿闍世王深く慚愧し朕妖賊小瞞れ骨肉大恩の又母を獄小
 下りたるは如何なる心小有ると號泣し先世その師弟を城中小請り供
 養し即回小牢獄を破却し又王母夫人を出り頭を破り血を出して罪と
 謝す頻婆娑女王王章陀夷希夫人の太子の本心小還りを深く悦び其是偏
 不如來乃大慈大慈小依りし世その小拜謁あり厚く法恩を謝し種々の施物
 を献りしふ茲小於て世その國王又子乃為又母報恩經を説三世因果觀面
 理を示し其頻婆娑女王より夫人太子緒臣下々々感涙をとりて深
 三宝小皈依し髻を剃り佛弟とたる者三百余人受戒する者數もす世
 其歡喜し其國王小辭り阿支羅毘國を矩奢那國と起むる

欲冠世尊提婆墜落地獄

斯く世尊ハ矩奢耶國小至リ玉の口方便を以テ龍種太子を善心
小飯せしむ。頭明王を遠嶋より迎還させ。六河般若經を説く。諸人
を教化し玉。夫より瑯舍國小至り。鹿仙太子を説諭し。梅陀羅王
を深谷の下より扶出させ。其余提婆が惑亂せし國々を周行し。悉く惑
ひを解く。教導た玉。玉の其國々の國王人々が佛思の廣大なる
を尋る。三室小心を傾けざるハたりたり。然る小提婆連及ハ此吏を以テ
大の憤り。此上ハ我釈伽小進付一刺小切害せん。劍を懐小隠し。女年
と妻。其頃世尊ハ摩竭國善勝道場小在。説法し玉。玉の雲と
跨り。利那が間小道場。到り。聽衆小雜り。世尊小咫尺し。説法由
終り。聽衆の退散するを待。忽ち本相を顯し。劍を拔く。世尊を刺す。
らんと走り。然る小俄然と大地裂烈と。焰燃出る。小大の孩た急

小退んとする。小口はく足乃踏所火穴となり。其中墜落し。猛火の爲小身を焦す。
れ。叫んとす。煙咽を閉。声出せ。終に神通自在。絶を更能す。遂
小活あが。奈落小陥り。地獄小入る。阿難。怨心。世尊小對。提婆連及
か造る所。罪無量なり。と。魚正。如来及び弟子們。後弟なり。如来無縁
乃衆生。小救ひ玉。可憐大慈。起心。垂く。彼を地獄中より救出さる。
玉。願多。世尊曰。渠素リ佛因。あれ。救ひ得。玉。罪科。深重
なり。我許。呵責を受。あ。罪障消滅。玉。昔。玉。阿
難。可難。猶も提婆を憐。救を需。三日小及び。目連。人。世尊
小向。弟子。願。地獄。赴。提婆を練。懺悔。せ。人。世尊曰。阿鼻
地獄。墜落。する。同。人間。の音を解。玉。更。能。玉。你。到。玉。其。甲。髮。あ。る
魚。目連。曰。弟子。よ。六。千。四。百。小。通。下。玉。往。提。婆。女。小。結。ら。玉。渠。解。せ。玉。小
更。い。よ。と。強。く。望。ま。よ。り。世。尊。徐。く。許。玉。目。連。悦。び。神。通。を。以。て。早。く。阿



提婆世尊之聖名
主引之地獄かゝる圖



鼻地獄不到。空中より提婆達多と呼ぶ牛頭馬頭空を仰見。曰く。若し者提婆
 を呼ぶ何妻をうかり。由や。目連が曰く。提婆如來小冠せん。活地獄小投せり
 阿難可難。爾を憐れ。救を乞ふ。止む。是小依。我如來。免を得。這所
 小来。き。你们早く提婆を將て来れ。よ。命。獄卒が曰く。達多が罪深重な
 れ。若干の呵責を加へ。已小粉骨碎身せり。今女阿待。對面させ。進せん。と
 鐵の鋸の上。咬咀したる骨肉を銅の箕へ。住し。活々と呼ぶ。ま。ひ。忽
 ち提婆が形容となり。ぬされ。も。猛烈肥大の身材。古骨の如く。瘦衰。顔色
 青く憔悴し。も。苦。け。焰の息を吐居たり。獄卒虚空を指し。你彼尊
 者を怒や。不。と。其阿達多空を仰見。れ。佛弟目連。淨雲小駕して。立
 たり。達多洞を潜然と流し。者俯。願。我を救ひ。と。曰。目連が曰く。你
 妬乃心深。佛法を滅せん。且諸國乃太子を惑。五逆罪を造。せ。提
 惡念を改む。我佛如來を弑。も。人。も。其罪障無量。方。れ。生。か。阿

鼻地獄小投せり。今你心猶如來を恨。も。將。你。罪を恨。提婆を泣。三我會
 願。癡乃三毒の爲。心。明鏡を曇せ。如來。妙經を信。せ。因果應報。現
 成。嘲り。今活地獄乃苦患。途。て。幼。佛統の虛妄。を。知。千悔。され
 とも。返。一度阿鼻地獄。小。墮。落。より。呵責を受。る。と。無量。なり。或。熱。鉄の
 釜中。小。投入。せ。我。身。軀。を。煮。爛。或。鐵。の。組。小。咬。咀。或。般。石。の。臼。小。搗。或。を
 銅。板。小。ち。ち。絞。り。其他。火車。小。責。乘。られ。劍。山。小。追。登。され。朝。小。紅。蓮。乃。水。小
 身。を。裂。れ。夕。小。焦。熱。火。乃。熾。小。身。を。燒。き。其。余。百。千。乃。苦。患。二。六。時。中。息。を。吐。の
 際。由。あ。と。皆。是。自。業。自。得。果。也。他。を。恨。人。を。殺。唯。願。く。は。者。大。惡
 惡。心。を。垂。く。我。を。救。ひ。今。一。度。安。婆。回。り。佛。足。を。拜。して。多。年。乃。罪。を。滅。し
 ども。空。より。血。乃。洞。を。流。して。啼。哭。し。れ。目。連。致。息。して。曰。你。圖。淨。小。在。一。阿
 八。威。萬。人。乃。上。出。助。力。と。大。象。を。搏。ど。今。阿。鼻。乃。罪。人。と。り。て。八。弱。草。と。拔
 力。乃。鳥。雀。乃。欺。る。是。你。罪。你。を。責。る。乃。你。因。果。乃。理。を。悟。り。本

心三宝の皈依をなすを我を救ひ得まじきぞ提婆同連の足を拜して
 曰若き者我を救ひ阿鼻の苦患を脱せしむる誓ひ佛果となり新
 水の湯をなす。永く世々小事なるごとく天小向く誓ひをなす目
 連憐れ獄卒小向く曰達多が罪重しといふも如来の後弟といひ己小先非を
 悔く佛弟たるごとく誓ひ今阿責を恕し獄卒が曰是我々が預ると云
 小あむと森羅王小羯しと乞むと告ふ小同連領く森羅殿小到り。真
 王小羯と冥王同連をんく恭敬礼拜し者何等の妻有て。駕を辱
 しやと問同連が曰提婆達多先非を悔く佛弟と云人妻を辱す願
 くハ法王渠が罪科を拜し。閻浮小回く乞むと乞むを真王掌案判官小命
 生死簿子を檢りむる小斛飯王の子提婆達多壽四十五才とあり今達
 多四十二才かれ猶三年の生命有と奏す是小依く真王目連小對く曰
 提婆が惡逆其罪重大かれハ大劫を極るも怒とを死小あざれも

者光駕を枉くと即小依く渠を恕し婁婁(回)のいなり。されども再び惡
 心を生じ三宝小冠とる不於てハ再度阿鼻小隊に浴し永劫浮む期あざら
 む言者能く教誡しむると即阿鉄札乃罪名を削捨られ小同連辱
 く謝し以前乃呵責場(回)り提婆が身軀を抹く俱小淨雲小兼神通と
 以く一瞬のうちに小世々乃在と善勝道場(回)りたる世々同連が提婆と
 伴(回)りをんむ如何や達多你因果觀面乃理を悟るると同提婆
 怖く佛足を拜し我邪見愚昧小如来乃妙教を悔り阿鼻地獄小
 落數箇年乃同無量乃呵責を受初く佛繞乃端的なる我知願くハ
 昔日乃罪を省し我を法弟となし得脱なきとむと涙を流して告
 ぐる世々微笑しむひ你とらむと天上乃一日八人累乃十年人累乃一日八地獄の
 十年より此を你が阿鼻(墮)落せり同ハ繞小三日かれも呵責を受しと
 三十年なり故小善を修し佛果を得る我上知し惡を擅小して墮獄す



六十四卷



佛勅ぶつしやく
 自連活地獄おのれんかつぢやく
 提婆ていば

圖

る人下思とせり早く三室小飯依一出家得道せよと宣ひを提婆女感涙小
晚即坐小阿難を戒師とて僧とかり名を調達と改め是より信心堅固小
持戒一々未遂小阿羅漢果を得たり多し。斛飯王此更を傳せし大い先
非を悔自己遙々善勝道場へ往く罪を謝し如来を自國へ請ひ重く供養
一種種々の施物を献り佛恩を報せられしを提婆太子乃新宮より妹
女臣下小いしる逆盡く如来の戒を授り出家する者男女千人小及び多し。調
達其后三年より命終一戒行乃功力小く天の樂界へ生下る是偏小佛道
修行乃善果かり信むる一なるむ一

須達宿月蓋舍拜世尊

茲小舍清國小一人乃長者あり名を須達と叫り家富榮く北斗を支むり
小財宝を積貯へるが天性夫妻女とも慈愍心憐愍深く孤獨貧窮の者を恤
財宝を散りて救ひ賑ひ善を修むるを樂しむ故小國人奉く其徳と稱

一号と給孤獨長者と叫り此須達長者小七男子あり已小六人か小家財と
多し脩身の段をたて多し弟七乃男子小殊小端正美質なる上智才多し
衆小勝れ多し長者夫婦小死く電愛し天信以者乃為小天下小雙まき
容顔美麗小く志も才藝小秀し婦を娶んと普く國中を尋求しり
いものいふ是を我が子の妻小かを乞ふと許し女もあふり多し食客乃婆羅門
乃うち廣才乃者小命。你緒國を周徃我末子乃婦小具がた才色兼を
かふる女を擇来りいへと托しを婆羅門領堂一修行者となりて緒國を
廻り往く王舍城小到り多し這國小一個乃長者あり名を月蓋と叫り是
も家富豪なる更須達小方むを曾く善勝道場小結く世尊の説法を聴
せし。深く三室小飯依一僧尼及び修行者小車り米錢を絶せり然る所須達
が彼女羅門月蓋長者か門前小多し鉢を呼王舍城乃國法小人物を絶を
小婦女を以て多かるかひかれ入乃女女善小米錢を盛く携へ出く修行者

小下波羅門此女女を思ふ小年十三四を多く天の命を美兒玉を欺死華を
羞むる國色有るを大い悦び我長者の命を得る諸國を廻り歳許の女と
見ればもいませ斯程の佳人を見れば渠を長者の未子の婦不娶るとも愧べし
むと思ひ女女小礼をかりて絶思を謝し你主翁の子なりや亦侍女なりやと
問女女が曰妻主翁の兒なり何が故か向ふ波羅門曰我々の相を思ふ小大福
徳人不嫁むる表あり然れども其期を過る時福分減り大貧窮の者小嫁
一且命短し我甚く是を惜り你が父家小在を我面會し其期を教示す
るしといふ女女推心小誠とかりて裡小入り又月蓋長者小斯と告をれを子をかよ
親心福愛とて禍とかなるをよの刻小迷ひ僕を以て修行者を迎へし波羅
門迎の者小後々長者が殿小昇り先礼を厚く拜しをれを長者急小礼を
叩く上坐小結し道師先我が女見を相し我小示を所ありと曰願くは高
九教を示しよとを波羅門曰今愛実小天下小比類なり美兒がれども若是

を王者の宮妃大臣の妻妻なふ具人とせむ必と短命なり一唯大家と等
く富豪小く大善根の長者の子小嫁とて長命無病中福徳限りある
うと我先月舎衛國を修行せし時彼國の大聖人給孤獨長者の許小數日
止宿し彼長者が末子を思ふ小年記十七八歳端正美兒少く智才又萬人小
勝り我其才色具足せしを愛し婦有る否やを長者小問ふいと意お
合婦ありされを娶むとていれ今熟ち小大家の命愛を彼須達が末子小
配偶せむ是天縁あり實鳳の匹も縋つる若婚儀を結ぶんやとて我
媒敵とてぞと弁小任せし鏡々小月蓋素リ須達が富豪小く大善心あり
を傳ゆ其人がを慕心深き大い歡喜し我も兼て彼人乃大を娶り
若其令息を女見が婿とて多変を得む幸福何変も是小過人這國の御
相我が女見を娶んと乞入多れも皆不善人なるが以て我敢て肯ん
其輩我須達長者と親を結をせむ如何なる針巧を殺す妨人ゆをこれ

を事火急小然こぜんとる小利あり。僥倖やうしやうふ我高賈たかかひの義小就よしと明早あきさきより家人けいじんを舍傍國しやぼうこくに到いたりんと欲ほつせり。道師だうし願ねがふ彼長者かちやうの我われが舍屋しやゑへ駕がを枉まがりてちり文書ぶんしよを造つくりてとむ長者ちやう小贈おくりりて光駕くわがを促うながし親婚おんこん乃すなはち更さらを商議しやうぎせんと望のぞむ小波なみ羅羅門ららもん送おくりて。微細ゐさい小書記しよきしてとみれを月蓋げつがい文書ぶんしよをたらしけ家人けいじん小托たくし。須達すだつ贈おくりむ家人けいじん命いのちを領りやうりて舍傍國しやぼうこくに到いたり。須達すだつが許もと小往むかく文書ぶんしよを呈ていしとれを長者ちやう是こゝを披ひらけられ彼波羅羅門ばららもんに書かけて月蓋げつがいが女によを擇得たくとくる一ひと五十ごを書かけられ大おほ小悦よろこび即すなはち同どう小旅装りよさうとて王舍城わうしやじやうなる月蓋げつがい長者ちやうが許もと小到いたり初はつの面會めんゑし。互たがひ小素情すじやうを述終のちりて酒宴しよゑんを催もよほし。月蓋げつがい愛女あいじよ成なりて陪殿ばいぜん侍まうらうし。須達すだつ此こゝ女によをたらし小波羅羅門ばららもんに書かけられ一ひとの猶なほ十倍勝じゆじゆべいし。美女びよじよをれを歡喜くわんぎ小勝しやうと依より親おんを結むすび婚儀こんぎを約やくし。醉すゐを盡つくりて其夜そのよ月蓋げつがいが客殿きやくぜんに止宿とどりたり。然しかる小手夜てんぢやの頃ころ不圖ふと目めと覺おぼし。小家せうか裡うち乃すなはち男女なんによ飲食おんじの苦くるを尋たづね執とりて大おほ小餐さん應おんの准備じゆんびをなす

体ていをれを心こゝろ縛しばり想通しやうたう月蓋げつがい我われが為ため小饗きやう應おんり致ちをなすとも數人すうじんの苦くるも支足しあそぶ。小數すう千せんの食じき益えきを取とりて何なにの科しや小不審ふしんとて暗くらむと翌あした日月げつ蓋がい小對たいりて其故そのゆゑを問とり月蓋げつがい答こたへて曰いはく。如来にがひ及および阿羅漢あらかんを清きよく供養くわうやうせん。欲ほつしむるが故ゆゑ前夜ぜんぢやより其致そのちをなす。定さだめり長者ちやうの眼めを妨さまたせり。謝あやす。須達すだつが曰いはく。如来にがひと何人なにじんをり。月蓋げつがい曰いはく。君きみいま知しむるや。摩伽陀國まがたこく淨飯王じよんぱんわう乃すなはち皇子みこ悉しつ達だつ太子たいし降くだ誕たん乃すなはち日天地ひてんちの間まに三十二さんじに乃すなはち瑞相ずいしやうを現あらす。萬神まんじん藍毘尼園らんぴにえんを侍まうらう。太子たいし生なむるや。とて妻つまむとて七步しちふ右手みぎてを天てん小指さし左手ひだりて地ちを指さす。天上てんじやう天下てんか唯ただ我われ獨ひとり尊たうと唱なへ。三十二さんじに相あひ十種じゆしゆ好このを具足ぐそくし。成長ちやう小隨ずいひ字じとて萬藝まんぎ小達だつし。十九じゆ乃すなはち宮中みやちゆうを占うら特とく雪ゆき乃すなはち靈場れいじやう小難行なんぎやうとて更さら十二年じふにねん終つひ一切いっけつ智ちを得えり。無上むじやう正しやう覺かく乃すなはち如来にがひと現あらす。十八億じふはちゑき萬まん乃すなはち魔種まじゆを降くだす。三加葉さんかゑ同連どうれん舍利弗せりふ以下いげ神通しんたう廣天くわうてん乃すなはち波羅羅門ばららもん道師だうし皆みな徒弟たふていとて。諸國しよこくを回めぐりて一切いっけつ衆生しゆじやうを海度かいだし。今いま已いま小三千五百さんしゆご乃すなはち比丘びく二千八百にせんぱちひやく乃すなはち比丘尼びくに優婆塞うぱさい優婆夷うぱい八數はつすうをたらし。今いま這國ぢやうこく

善勝道場不在法を統むる依り我明日如来師徒を結ぶ供養を全欲
せりと五十を結りしを須建長者額を撫く大の歡喜我如何なる福縁
有て思男が為小絶世の美人を得且多年渴望せし大聖釋尊を拜する
を得るの悦び小勝を猶も月蓋を會し止帝事如来の光臨を之相待り
茲小叙尊八月蓋を請待小應下十大徒弟十六羅漢其餘百千の弟子を後
へ長者が館舎小来臨し玉の至翁乃為小妙經を統む其後供養を受
用し久須達六始如来の說法を聴せし隨喜の泪を流して信心貯小銘し
佛足を拜して告ぐる初の本覚如来の法顔を拜し妙鏡を承りし胸の雲
霧晴りし煩惱の夢を覚ゆ但し慈愍萬行の如来普く天下と周徑
く有縁無縁を化度し玉の我が舎法國を玉駕をむけむさる如何なる
佛意小やと問する世を曰你が不審さる更なり抑舎法國八國王も久御相
下民も邪道を信じく三室を嘲り繕る故小予いし你が國小到る須達泪

我垂く曰願く大慈大悲の如来一度佛足を舎法國小玉の邪を滅し法を勸
く國人を化度し玉の國の福をくんと滅心面小見れ願を世を點首玉
ひ你が大善心小予是を知り然も出家の法在俗と異なり說法をた精
舎を久に到りしと白く須達大の悦び思老が家小貯る財宝を竭くも精舎
を管するに若精舎成就せし如来法駕を促し玉を玉と問する世を須
く玉の說法をた精舎を造り玉を速小到り國人を化度し玉の須達曰
その如来の任し玉を堂塔如何なる地位小建ゆたや愚意小并へ玉の
願く之法弟の中地形を擇む精舎の廣狹を指揮し玉を河羅漢一人を
借り玉の願く如来実中と思ふ維を遣し玉を思惟し玉の舎法國玉を婆
羅門種乃邪道を信じ玉を原婆羅門の神通廣大なる者を遣は玉を
國王を屈伏せしむると能く玉を十大弟子の中舍利弗を召出玉の須達と
俱小舎法國小赴り精舎を立る地位を擇む堂塔の數量を指揮し

ぞと命し舍利弗依止とて領掌し。須達と曰道一舍衛國(赴)り

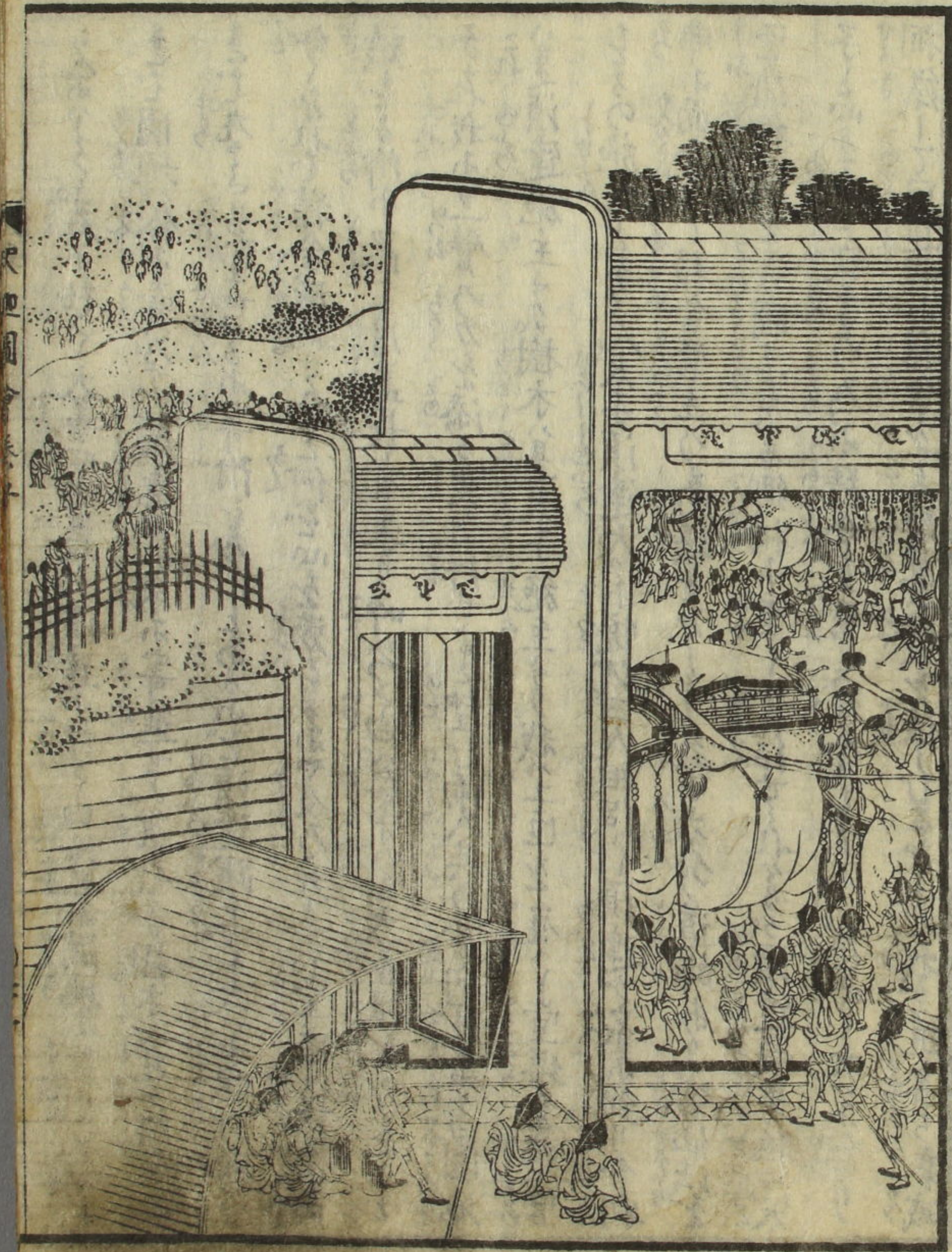
須達賞祇陀園舍利弗降六師

斯く須達長者ハ舍利弗と俱小舎城を立舎衛國をさして回リ々々世々
師徒乃休足去去るれ科小く巧匠を雇之。二十里毎小亭舎を管立飲
食の苦まぐ調(置)目を徑く舎衛國の我館小着眷族を集く舍利弗を
拜せめ齋を致く重く養應し。其后舍利弗と俱小舎國中を周リ精舎
を建るれ地位を求る小舎舍利弗が意小可地を。余リ小求る小舎衛國の大
波斯匿王乃皇子祇陀太子乃園小い。舍利弗此園中入く小土地平博
小く樹木蔚茂せり。然中王城より遠くを近くを最上乃地をれ舍利弗
が心小合須達小對く曰這地絨小如來乃法意小可なれの地なり其小ハ若王城
より遠た地ハ托鉢修行小勞煩なり。亦王城小迫た地ハ憤鬧して統法の妨あり
因く精舎を建立とる小這地小勝るハあり。須達頭を搔く曰這園自余

乃者の所領をを買得せんと安くとす。是ハ二國の皇子乃莊園をれを甚ぶ
購得が。何平余乃地中精舎乃地位を擇む舍利弗曰我多日你と國中と見
廻ると佛意小可なれ地一所小有変なり。鬼小角中して這地小精舎を建いとい
小ど須達已更を得て承伏し。現音太子乃宮中(伺)候し。旁八隅乃物結して後秋
その法徳を讃歎し。這園小精舎を建如來を結して國民小佛統を聽安させ
か小惡を捨善を修して園自安寧なるといふ。祇陀太子曰我此意を死
小あくと進た小又小告く世々を招くぞ。須達曰如來を招精舎小精舎
なると如來光臨し。小更なり。是を奈何とて去去るれ太子曰何乃難た更ありん
何方小園中より空地を需り精舎を建く招くぞ。須達首を揮く曰否。此を
精舎の地王城より遠くを近くを樹木蔚茂し。平正乃地をてハ佛意小合を
小入園中の地理を考ひ小太子乃莊園小勝るハなり。願くハ彼地を小入小賣とすへ
小とを太子亦く我這園乃太子とて錢財とす。彼園ハ九道徑植戯

の地ふく敢て他人の譲りて長者曰道進娛樂二世の樂と精舎を立如來の
 化度を受る八萬代乃幸福かり太子乃御游の地彼園も限らざり狂く小余
 賣とむと再三再四懇望し止されむ太子とてあまし心中思惟しなる八葉斯
 まく懇望しむも價拔群小貴く賣んとしむ望を断ざりし頃須達小向ひ你
 さむふ丸が園を購得んと欲せむ彼園乃地を黄金を以て布満す公乃余地中
 残さむん其黄金を以て園地を賣とむ長者歎曰王者小戲言なり小人
 之回り園地小黄金を布て購ひ取りをりし頃坐を起私宅へを回りたる太子大
 け小談丸素り園を賣の意なりし頃も渠が望を断人為小價を貴く云ふ小
 豈もろ人渠猶屈する色なく領掌して回るなりとは是ハ如何なるを乞ふと心地感ひ
 むひるる流石小約定せ一言を違變せん妻も能くを廣大の園地を乞ふ富豪の
 須達なりし頃もよも彼地を布隠し程の黄金八貯得と唯長者財乃足ざらん
 更をぞ祈られし頃須達長者館舎小回りし倉粟を用た數億萬の黄金と五

頭乃大象小肩せ祇陀園小到り地乃廣き分量小凡八十頃小向たり即ち數百人の
 下僕を分ち自己指揮して満地小黄金を布し五頭乃大象小肩しあさる
 黄金小く猶不足亦二頭乃大象小黄金を肩來らりし頃一すの地をも見せず
 遂小満地を布隠しられし頃も廣大の祇陀園も金光日小映りさながら金色
 世界乃如く見る者目を發し發し數せざるはなりたり祇陀太子疾より園小未
 り須達が黄金の數量を問ふ七頭乃大象小汗を流し許り黄金を肩せ來る
 を見し心懊惱し斯て此者遂小丸が園を買取たり如何せんと思ひ煩れし頃か
 恥と心付しや須達満地小金を布満し猶茂萬株の樹木あり是ハ約定の
 外かれは是を以て拒むると念居られし頃今已小満地小黄金を布終りたるを
 見し不覺嘆息し斯無數乃財宝を抛り釈迦乃為小精舎を造管せんと欲し
 須達が信心を以て考れし頃世乃法徳弘大なる事推し知るし不如たもこの
 園地乃樹木を悉く世乃小寄附し須達と俱小精舎を建てるし將來の福と祈



須達長者無敵乃
黄金と抛る
祇陀太子の
園と貫

らふ小初々。茲小初々。大善心を我。須達小習。曰汝已小滿地。小黄金と布。まむ園地。小你小賣を。隨意小如果小寄進せよ。然れども樹木之凡が所有なまか九す。是を世言小寄附とを。とあるふ。須達躍上。大悦び。斯の如く。なれを精舎成就せん。何ぞ心を勞む。及んば。堂塔造営の高議。所小勿心。月蓋長者来り。呼ら。曰公等。の大善根をなすこと。なれ我小一臂。乃力を添る。更を并せよ。望む。兩人其由。を問。月蓋。曰園地。ハ是須達絶主。樹木ハ是太子絶主。我ハ工匠を雇。堂塔を造営。とるの絶主とあり。人太子須達大悦び。三人相侶。須達が家小到り。舍利弗小面會。して精舎造立。乃高議をな。六人の道師あり。皆仙法を學。小神通を弄。國王。卿相。小重く。信せ。れ。須達長者。祇陀太子。と心を合せ。秋。乃為小精舎を管。建んと。とる。曰。成。大悦び。怒り。相議。して曰。這國小精舎を。瞿曇比丘を任。む。る。な。我。が。道。心。ち。衰。滅。

とる。不如大王。小給。精舎造立を停止せ。人。如斯。衆議一致。して六師。波斯匿王。小見。奏。一。多。八。祇陀太子。須達。が。女。言。小惑。され。小瞿曇。汝。を。信。小精舎を造立。乃。深。を招。入。と。是。大。乃。貴。小。衰。亂。の。基。小願。く。大。王。太子。小勅。く。精舎建立を停止。須達を捉。へ。重。く。刑。一。む。と。口。残。と。告。を。國。王。曰。朕。更。淨。飯。王。乃。子。釈。迦。が。法。義。人。天。を。化。度。一。切。德。廣。大。乃。と。百。國。心。を。傾。け。四。天。下。皆。渴。望。と。是。小。依。と。朕。も。一。回。釈。迦。と。清。く。其。統。法。を。聽。ん。と。思。り。我。も。無。益。乃。道。方。く。聽。小。及。と。太子。が。造。営。小。停。止。と。を。唯。憾。く。八。朕。卿。們。が。修。む。道。と。釈。迦。が。修。む。道。と。何。も。勝。り。何。も。劣。る。更。を。と。心。小。疑。惑。せ。り。と。是。を。奈。何。が。六。師。乃。首。領。勞。度。差。と。り。者。席。を。進。ん。曰。是。何。ゆ。最。安。れ。更。と。今。須。達。が。舎。り。止。宿。む。多。舍。利。弗。と。り。比。丘。佛。徒。數。千。乃。中。より。抽。で。れ。這。國。小。来。る。釈。迦。小。亦。多。手段。ある。者。乃。多。舍。利。弗。と。我。們。渠。と。法。術。を。揃。ひ。を。若。舍。利。弗。勝。心。精。舎。

造之を免許す。將我門勝を造之をさし止舍利弗を追回す。下と奏すと國王是之
まじく此義をさす。下と内意あり。即阿小官人を以て須達を王宮へ召す。六師の願の
旨を云せ。法術を揃るをよ。命し。命し。命し。須達長者大い孩丸。這更如何者
んと思ひなす。王命返すと。能くを領掌し。快々として退出する。

揃神通舍利弗降六師

斯く須達長者八思ひし。王命を得て心樂し。す。懊惱を抱たす。私宅小飯
り来る。舍利弗長者が不快の体を以て其故を問。須達曰。小人今日王宮へ参
内し。いところ國王の信の六道師と。者者と法術を揃る者勝む。稽舎
造営を終む。若六師勝を稽舎建立を停止せ。王命なり。彼六師を
皆猛悪く。且神変不測の術あり。者者八是正法慈眼の佛弟。渠們が邪
術小負む。太子及び小人大願一朝の霜と消人更の憂。心樂し。まじくと
語る。舍利弗笑し。曰。絨小長者八正直老實の心。心を安んじ。揃術の領掌

を告ぐ。彼六道師如たの者。祇陀園の草木の數を以て来る。我が此院小生ふ
一根の毛。亦動し。得と。さ。縛る。云。放つ。長者猶心穩か。されと。意中。心想。道
此人平素小柔順。小。仮小。大言。せ。今。這。大言。を。放つ。必。彼。六師。小。勝る
手段ある。な。り。再。び。王宮。参。り。舍利弗が術揃領掌の旨を奏す。彼
斯匿王。其。準備。せ。と。官人。小。命。と。城外。の。廣。地。を。擇。ま。せ。四方。小。塔。を
結。高。座。を。設。け。諸。國。中。の。人民。今日。より。七。日。の。後。這。地。位。小。終。婆。羅。門。六
師。世。の。乃。徒。弟。舍利弗と法術を揃る。あ。隨。意。小。看。ま。と。觸。れ。る
國。人。們。這。更。を。中。是。六。珍。の。看。事。と。奉。其。日。於。相。待。々。斯。く。程。を
定。日。の。方。り。を。れ。波斯。匿。王。を。召。す。祇。陀。太。子。卿。相。宮。妃。般。々。乃。下。官。を
揃。術。場。小。至。の。殺。乃。座。位。小。着。塔。の。四。面。を。國中。の。貴。賤。老。若。幾。千。万。の
數。を。以。て。雲。霞。の。群。集。して。錐。の。地。を。殘。さ。勝。者。の。小。相。待
る。阿。小。守。門。監。率。金。乃。報。を。擊。東。乃。門。を。開。六。人。乃。婆。羅。門。數。十。の。徒

弟を牽く。場へ入る。坐し着其時。銀鼓を擧む。西の門を開く。舍利弗。須
達長者を従へ。徐々と歩み入。紋の席に坐し。諸人東西の勢を
見らふ。六師の悉く羅綾錦繡の衣を穿ち。意気揚々。舍利弗。只麻の法衣
布の袈裟を身纏ひ。勢ひ微々。衆人嘆息。可憐。這比丘僧。より
ひを好む。六道師が為。如何なる幸若を受らん。といひ。そめ。あ。裡。號令。の。鐘。を
鳴ら。れ。六師の中。も。持。神。通。廣大。と。中。え。一。勞。度。差。は。と。坐。位。を。起。寬。大。歩
出。瞿。曇。が。徒。弟。來。ま。よ。と。呼。其。時。舍。利。弗。之。對。回。を。待。小。勞。度。差。が。白。や。あ。れ。舍
利。弗。你。が。師。又。瞿。曇。汝。彌。ハ。妖。怪。の。變。生。也。胎。内。小。居。こ。二。年。母。親。乃。右。脇。に。蹴
破。く。出。生。し。早。く。不。孝。の。罪。を。犯。刺。高。息。の。又。を。捨。て。邪。道。を。學。び。天。下。の。人。民。を
惑。し。君。又。を。捨。妻。子。を。捨。嗣。を。断。族。を。絶。と。の。道。小。介。む。是。不。忠。不。孝。の。教。あり
抑。我。が。這。舍。傍。國。と。君。臣。賢。明。小。親。迦。が。邪。統。を。用。ひ。を。我。が。真。正。の。道。を。信。し
君。臣。又。子。の。倫。を。乱。さ。と。出。る。小。唯。須。達。と。い。ふ。至。愚。乃。國。賊。あ。つ。親。迦。が。女。結。小

購。れ。太子。小。勸。く。這。國。小。道。場。を。開。く。と。欲。し。是。迷。ひ。の。甚。ぶ。を。我。が。大。王。小
奏。し。今日。這。場。小。於。く。你。と。我。術。を。揃。明。く。小。國。人。小。道。家。と。佛。家。と。何。を
う。真。方。を。更。を。知。ま。ん。と。欲。せ。り。你。が。術。勝。る。を。積。善。を。立。る。更。を。許。さ。る。若
我。小。及。む。を。ん。を。須。達。ハ。九。族。を。滅。し。你。ハ。骨。を。粉。砕。し。肉。を。泥。と。お。入。但。一。術。を
揃。さ。る。以。前。小。非。を。悔。く。罪。を。謝。し。わ。を。幸。小。一。命。を。恕。し。放。ち。飯。り。人。三。思。を
加。へ。答。を。お。せ。下。と。罵。り。を。り。舍。利。弗。天。を。仰。ぐ。大。小。笑。ひ。を。加。綾。頻。迦。乃
吟。む。を。を。を。燕。雀。の。啼。り。我。が。音。猶。頻。迦。より。微。放。り。と。想。ふ。と。く。你。們。が
凡。眼。を。以。て。見。る。可。き。我。佛。如。來。乃。妙。法。を。不。忠。不。孝。の。道。も。或。ハ。邪。道。と。も
お。の。ふ。を。是。麒麟。の。生。虫。を。喰。は。さ。る。ハ。豺。狼。の。笑。か。如。く。所。經。你。が。們。と。口
舌。の。論。ハ。無。益。なり。你。術。あ。を。絶。せ。よ。我。盡。く。是。を。破。る。と。事。を。お。け。お
答。を。れ。を。勞。度。差。大。小。怒。り。惡。比。丘。が。廣。言。う。め。く。我。が。本。事。を。足。を。下。と
る。眼。を。閉。く。女。阿。念。む。れ。を。場。乃。中。正。小。一。株。乃。小。木。生。出。り。雲。霞。乃。緒。人。月

と瞬まじりて毗居る小衝々小長大となり枝繁り葉を増えん中天下生上り
日影を覆絆小散葉茂し花咲菓を結ぶ衆人あつと感ん実由希代乃神通
くまの續歎まると声女時ハ鳴り止まりり舍利弗是をん右手を揚り天を
指さす俄然と旋風吹散り方度差が大木を根をくろ吹抜地小倒る
微塵となり衆人是をん再び感歎。這般の術揃舍利弗者勝り
と賞譽を三度差を奇再び咒文を唱えん忽然と場中池水現
周リ乃巖石盡く七宝を積重澳小種々乃妙花咲出たり舍利弗亦指を以
て虚空小描む六牙乃白象出現を一身長大の牙乃上毎小七葉乃蓮花
生下其臺毎小七人の玉女坐せり件乃白象池辺小歩より湧溢る池水と
一滴も残さずと吸盡せん玉女袖を以て花木を拂小池も花石も霜のてく小
消白象八雲を踐り天小昇り方度差二度の不覺をとり忙然と唇ハ
神通を弄更能く是小依り緒人より舍利弗這度も勝り唇ハ六

師の一人拔迦耶とい者方度差小換り場小進出言の向答をなく捨念咒
結を唱まを忽ち一坐の大山湧出泉滝樹木草花盡く具足山上一字乃
堂塔あり皆七宝を以て莊嚴せり諸人是をん嘆美する所小舍利弗も
天小描を數丈の金剛力士天より降り降り金剛杵を揚り山を一撃これば
大山砕け散て雪の如く消失なり拔迦耶怒り亦咒結を唱まを一個の龍池中
より出現を一身小十頭あり鱗角を鳴り爪牙を顯し虚空小飛騰大
雨を降し黒雲を發雷電天地を震動させを衆人恐怖を戦慄せざる小
舍利弗女も強がると一念これ唯視二羽の金翅鳥飛来り龍を挫折裂
喰是小依り兩雷雷収り白日皎々より衆人心を安んず舍利弗が勝を賞ね
其時亦六師の中より迦里閣とい者拔迦耶小換り進出捨念咒結を
唱れ俄然と一大牛出現を身軀肥壯小鹿足利角あり大牛吼り地
を奔り疾風の如く舍利弗小向角を揮り衝来る舍利弗又一念これ



舍利弗大神通
現して六師等と
闘し圖



舍利弗大神通

巨大の師子現は、大牛を齒牙小く分ち裂して喫盡す。是亦依て迦厘闍
由勝更能と引退く。又六師の中より耶羅伐といふ者進み出身を動し、夜又
神となる身材十五丈頭上小火燃眼中赤く血の如く四牙長く利刃、眼光
日月小舟、諸人畏を乞く、怖まざるは、舍利弗も同じく身を喪し、毗沙門天
と化し、身材二十丈三叉の戟を廻し、夜又神と闘ふ、數十合、夜又神力疲れて
逃んとする、小猛火燃出く、東西南北路あらざり、耶羅伐大い、怖まき本相を頭
する者怒し、まこと叫む、須臾小猛火消、舍利弗假相を收く、本坐ふく、六師の
中、遲屠斯、賈鳩墮の二人を勝たれを知り、出合む、茲小於て舍利弗身と躍
く、虚空小鼻ごとく、んえたるが端、然るく空中小立、身上水を出し、身下火を出
し、東小没し、西小現き、北小隱き、南小現し、或は身を百丈ふして、跋扈或は身を
寸小く、宛轉し、或は身を合ふく、千萬となし、或は合し、一身となる、其變化究
りなれむ、國王太子、卿相も、無数の看者、感嘆し、勝を譽る声、百里の外小

徹と多許なり。さゆ我慢の六道師も、舍利弗の神變奇特を、よく屈伏し、各
前より罪を謝し、おれ者如来小願ひ、我が身を佛弟となし、まこと望まれ、從隨
け、徒弟們も、俱小得道せ、入道を願ふ。舍利弗善哉々々、是を許結し、
場中、小高座を設け、自己是亦上り、衆人乃為、本行宿福の因縁、端的なる、更
を示し、比喩を設け、佛道の甚深微妙を、説き、これ聴衆、無明の睡を覺し、
感涙、小袖を絞り、斯く説法、畢たれ、億兆乃聽衆、歡喜踊躍して、已か
隨意、去國王、太子、臣下と、俱小舍利弗を、結して、城中、還り、まこと種々、小報
し、金銀、綃帛を、布施し、小舍利弗恩を、謝して、王宮を、退た、須達、舍利弗、
後太子も、須達、月蓋と、高議し、二、百、數、千人を、以て、祇陀園を、剪ひ、た
伽藍、造堂を、始め、す

釋伽却一代圖會卷五畢



